自然保護課だより
かわせみ通信
第37号（令和6年9月発行）

発行：神奈川県自然環境保全センター
自然保護課
住所：神奈川県厚木市七沢657
TEL：046-248-6682

野外施設自然情報

バックナンバーは
HPから見られます→

自然環境保全センターの野外施設では、それぞれの季節に、生き物同士の巧みなつながりや、興味深い生命活動など、大自然の不思議な現象にふれることができます。
この「かわせみ通信」では、野外施設の出来事や生き物たちの様子を紹介しています。

野外施設トピックス（2024年6月～2024年8月）

日　付	場　所	できごと
7月17日	本館前	帯化ヤマユリ開花 毎年本館前で見られるヤマユリの中に茎が平べったく帯化し、通常よりたくさんの花をつけた個体を見つけました。40個ほどの花がつき、強い香りを放っていました。
7～8月	自然観察園の谷戸	野鳥の親子を目撃（来園者情報） 7月にサンコウチョウの巣立ちビナと親鳥の家族が、8月にはキビタキの親子が確認されました。園内で無事に繁殖ができたようです。
6～8月	K14付近の雑木林	林床にヤブレガサやアキノタムラソウ、ヒヨドリバナ、カノツメソウ、ツリガネニンジン、オトコエシなどが順に開花しました。 ナラ枯れで高木が減ったことや春に林床の刈払いをしたことで、花が増えたように感じます。オカトラノオが2018年以来久しぶりに観察されました。

帯化ヤマユリ

オカトラノオ

谷戸に茂る木々の良いところ、困ること

記録的な猛暑が続いています。天気予報では連日35℃～37℃といった数字を目にしますが、実際外に出てみると、時間帯や場所によって状況は少し異なります。

8月のよく晴れた日のお昼ごろ、本館付近の日向と自然観察園の日陰で温度を測ってみました。本館周辺の日向では40℃近くに達するのに対して、自然観察園では31～32℃でした。体感でも本館の周辺より谷戸を歩く方が楽に感じます。

林の中では木々の枝葉が太陽の光を遮り日陰を作ります。さらに葉から水分を蒸発させる際に周りの熱を奪うために涼しく感じます。沢に面した谷なので土壌にも水分が多く、地面に触れてもアスファルトのように長く触っていられないほど熱いということもありません。

とはいえ熱中症対策という点では油断は禁物。今年はまだまだ暑い日々が続きそうなので、自然観察の際は体調と相談し、こまめな水分補給を忘れずに、熱中症予防に努めましょう。

熱中症とともに、自然観察園を管理していると心配なのが台風による影響です。日陰を作ってくれる木々ですが、強風により大きな枝が折れて落ちることがあります。園路の上にかかる枝はできるかぎり撤去するようにしていますが、斜面の上にある枯れ枝が落ちてきたり、葉が茂って元気に見える枝でも思いがけず折れることがあります。

折れた枝が園路にかかっている様子

自然の中で木が倒れたり、枝が落ちたりすると、それまで日陰だったところに日の光が当たる空間ができます。新たな植物が生育できるようになるので、森林を若返らせるという良い面もあります。
これから台風が季節がやってきます。強風や大雨の場合、自然観察園は臨時閉鎖することがあります。また、台風が過ぎたあとでも折れた枝が残っていて落ちてくる可能性もあります。そのほかにも園路がぬかるんでいたり、木道や階段が湿って滑りやすくなったりして普段より歩きにくくなる場所もあります。台風後の自然観察はより一層周囲の様子に気を配り、足元や頭上に注意して歩くようお願いいたします。

本館周辺で出会ったガの記録

ガにはどんなイメージがありますか？地味、気持ち悪いというマイナスなイメージを持っている人も多いかもしれません。しかし、ガもチョウと同じ鱗翅目（チョウ目）で、両者に明確な違いはなく、ガだから毒があるとか、地味だということはありません。日本ではチョウが約250種生息と言われているのに対して、ガは5000種類以上もいて、美しいものもたくさんいます。初夏から夏にかけて、本館の建物周辺で特徴的なガに出会うことが多かったので、ご紹介します。

まずはへんてこな形の幼虫を2種。本館裏から見えるケヤキの枝にシャチホコガの幼虫が、コナラの枝にスカシカギバの幼虫がついていました。シャチホコガの幼虫は、イモムシとは思えないような長い肢を持っています。おしりも持ち上げていて、一見どちらが頭かわかりにくい形をしています。なぜこのような形をしているのか、明確な理由はわかりません。捕食者を驚かせるためなのでしょうか？
スカシカギバの幼虫は鳥の糞に擬態していると言われています。葉を食べているときは体を伸ばしていますが、葉を触ったり刺激を与えると体をきゅっとまるめて、より鳥の糞状態に。つやっとした質感がとてもリアルです。そして数日後、同じ場所でスカシカギバの成虫を見ることができました。その名のとおり、羽には鱗粉のない透明な窓があり美しいガでした。

シャチホコガの幼虫

スカシカギバの幼虫

スカシカギバの成虫

本館入口の横にあるビオトープ「発見！観察コーナー」の周辺でもいろいろなガが見られます。7月17日には日本ではあまり記録のない珍客がやってきました。人の手ほどの大きなガで、七沢でみることのできるこのサイズ感のガはヤママユガやオオミズアオくらいですが、そのどちらでもなく「このガは何だ！？」と悩みました。図鑑やインターネットで画像を見まくった結果、ヤガ科のオオムラサキクチバという、台風などの風にのって外国から稀に飛ばされてくるガであることがわかりました。生態についてもまだ不明なことばかりだそうです。
小さいもの大きいもの、形や色柄も多様なガの仲間たちは、インターネットでもある程度種名を調べることができます。名前や生態がわかるとどんどん魅力にとりつかれ（？）親しみがわいてきます。これからもどんなガを発見できるか、「ガ」コレクションは続きます。

＜本館周辺で出会ったガ＞ （　）は翅を開いたときの大きさ

本館の壁にとまっていたオオムラサキクチバ（約120㎜）

ウンモンスズメ（65～80㎜）

ウスイロオオエダシャク（50～70㎜）

ギンモンスズメモドキ（63～82㎜）

オオトモエ　（80～95㎜）

傷病鳥獣救護の情報

※救護の情報やバックナンバーは、HPで見られます。

神奈川県　野生動物救護　検索

自然環境保全センターでは「傷病鳥獣救護業務」として、県内の傷ついたり弱ったりした野生動物（鳥類と哺乳類の一部）に、必要に応じて治療やリハビリを行い、野生に戻す活動をしています。
このかわせみ通信では、持ち込まれた野生動物の救護原因やリハビリ状況などの情報を掲載しています。

2024年4月～2024年6月の救護実績 （鳥類:68件　哺乳類:0件）

救護件数上位種	
種名	件数
スズメ	14
ツバメ	9
イソヒヨドリ	6
キジバト	5
ムクドリ	5
シジュウカラ	4

主な救護原因（人為的要因による）			
鳥類の原因	件数	哺乳類の原因	件数
ガラス窓等への衝突	10	―	0
粘着剤（ネズミ捕り等）および防水剤	7		
釣り針・釣り糸や防鳥ネット等に絡む	6		
ネコ等に襲われる	5		
交通事故の疑い	4		
誤認保護	1		
破砕機に巻き込まれる	1		

放野数	
鳥類	25
哺乳類	1

ハチ捕り専用の粘着シートにくっついてしまったイソヒヨドリ。

先に付いていたハチがおいしそうなエサに見えたのでしょうか？

カワウが釣れた　？？？

2024年5月5日、首と背中にルアーがついた状態のカワウを受け入れました。これはまたもや釣り具ゴミによる野鳥への被害か？と思いきや、違うケースでした。

基本データ	
種　類	カワウ（ウ科）
生息地	河川域
食性	魚類など
生態	水辺にコロニーを形成し、繁殖を行う

＜獲物だと勘違いしたカワウ＞

カワウを救護した小学生は、午前中から川でルアーを使って釣りをしていたところ、カワウが急に飛んで来て水中にあったルアーを食べようとしたそうです。そして、釣り針が刺さり、さらに釣り糸も身体に絡まってしまい動けなくなったようです。カワウは、水中で速く動くのが得意で魚を捕食する水鳥です。

※ルアーとは、水中で生きた魚（エサ）に見えるように作られた疑似餌（ぎじえ）という釣り具です。

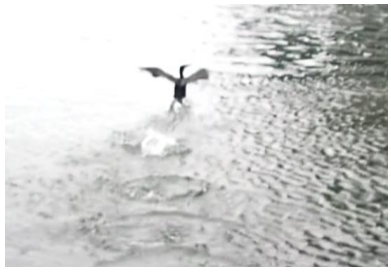
↑カワウが食べようとした
実物のルアー。まるで本物の魚。
これは間違えてしまうかも？

一度刺さったら
簡単に抜けない
釣り針のかえし

＜2日後には放野できました＞

持ち込まれたカワウは、段ボールに出血跡が付いていたものの幸い傷は浅く、威嚇して暴れまわるほどの元気がありました。傷の状態は浅いことを救護した小学生に説明したのですが、鳥が好きだというその小学生は目に涙を浮かべて悲しそうな表情のままでした。

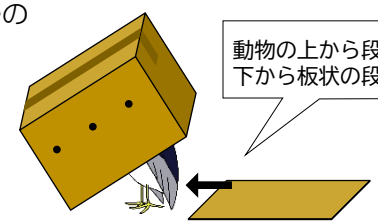
ケガした日の早い搬送と処置のかいもあり、傷はすぐに良くなり体重も100ｇ増えた為、2日後には無事に放野することができました。
勢い良く飛び出していくカワウの姿を救護した小学生にお見せしたかったです。



＜鋭いクチバシに注意＞

カワウなど魚を食べる種類の鳥のクチバシは鋭い場合が多く、素手で触ろうとすると噛まれるなどのケガをする恐れがあります。救護する際は、段ボールを覆いかぶせるなど、安全に注意して行いましょう。

まずは、救護した方がよいのかの判断を電話でご相談ください。危険を感じる時は、決して無理に捕獲をしないでください。



野生動物救護ボランティアの活動再開！！

春、それは動物たちの子育てシーズン！それに伴い傷病鳥獣の保護件数も多くなり、私たち職員にとっても一年のうちで最も忙しい時期です。その救世主となるのが、当センターの野生動物救護ボランティアさんによるボランティア活動です。令和4年9月末以降、1年半以上センター内での活動を休止していましたが、令和6年4月20日より活動を再開しました。

＜ボランティア研修会＞

新体制でのボランティア活動が始まることに伴い、令和6年1月末から3月末までの26日間に渡り研修会を実施、ボランティアさん58名にご参加いただきました。研修会を受けられなかった方もいらっしゃるため、令和6年度も定期的に研修会を実施しています。

動画をみて作業手順を確認

＜見直した防疫体制＞

野生動物を扱う上でとても重要な防疫意識。新たなルールを定め、その必要性や手順をボランティアさんにも理解していただいています。

動物のいるエリア内に病気の原因となる病原体を持ち込まない！持ち出さない！

・立ち入り制限区域の設定

例：鳥類検疫のためのエリア

・制限区域に入る人を管理

本館で受付

・専用ツナギの着用

病原体との接触防止

・泥落としと消毒の徹底

しっかり靴底の汚れを落としてから消毒

・防疫体制を強化した上でのボランティア活動

飼育ケージの掃除（左）
強制給餌（右）

＜続けていきたい試行錯誤＞

現状は、できる限りの体制で防疫措置をとっていますが、設備や物品の問題、職員の労力に見合っているか等、妥協を余儀なくされた点も多く理想通りにできていないことがあるのが現状です。今後も状況に応じて常に改善できるところはないか、ボランティアさんの意見も取り入れつつ、共に試行錯誤を続け活動していきたいと考えています。

＜令和６年度　神奈川県野生動物救護ボランティアの募集について＞

講習会開催日：令和6年10月26日（土）

募集期間、応募方法等については、準備ができ次第ホームページに掲載します！